

ちーむはっけい

～社会資本としての集住体プロジェクト～

ちーむはっけい代表

中尾達郎

(環境科学研究科環境計画学専攻松岡ゼミ)

ちーむはっけい顧問 松岡拓公雄



集落俯瞰写真

ちーむはっけい

私たち“ちーむはっけい”は1999年、松岡拓公雄教授が滋賀県立大学赴任時に、大学1回生から大学院2回生までの縦割りのゼミを編成し、ひとりの建築家がまとめた「社会資本としての都市住宅構想」に対して学生の視点からどんな重ね書きができるかを共通のテーマとしたワークショップに参加したことに始まる。

それ以来、このワークショップでは主に「都市における集住形」に焦点を当て、活動していた。私たち滋賀県立大学がこのワークショップに参加するに当たって、滋賀県彦根市というフィールドで“都市”から離れた視点からのアプローチを考えることができるのではないだろうかと考えた。そこで、彦根市の特徴の一つである田園風景を社会資本として捉え、全国一律のシステムの提案ではなく土地に根ざした地域性をもつ景観を考える勉強会を実施した。彦根市に数多く点在する集落を調査・研究することを活動の核とし、さらに現在の集住形と照らし合わせることで「集まって住む」ということへの提案を模索していき、それを都市や田園において反映させる提案につなげていくことを主な目的とした。

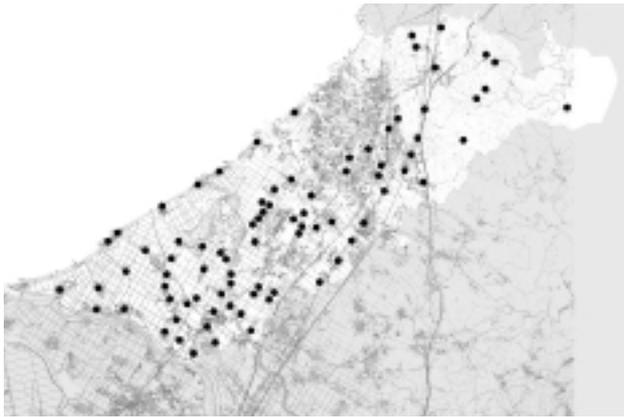
これまでの活動

集落調査

現在、彦根市の約80ある集落のうち30の集落を調査してきた。デザインサーヴェイという形をとった調査方法は次の通りである。

1. 集落を形づくる屋根の形状・方向、樹木の配置などの景観要素を抽出し地図に落とし込む
2. 集落の歴史を文献、古地図、過去の航空写真などをもとに調べ、その集落の成り立ち、形態の変化を知る
3. 2をもとに1を分析し各集落の特徴を導き出す

この作業を各集落で繰り返すことにより、集落を湖岸・平野・街道沿い・山際のカテゴリーに分けその立地などの条件により、彦根の地に人々はどのように生活していたかを知る。それと同時に「集まって住む」という本来の人の生活スタイルを再発見・再認識し、現在の集住形では失われているもの、忘れてはいけないものを見出す作業にもなると考える。



彦根市における集落分布図

湖岸集落	大藪 八坂 須越 三津屋 下石寺 薩摩 柳川
平野集落	新海 田附 本庄 下岡部 上岡部 甲崎 田原 稲里 普光寺 南山崎 出路 金田 金沢 西清崎 小田部 野部 彦富 服部 上稲葉 下稲葉 服部 海瀬 荒張 野良田 賀田山 稲枝 甘路 外町 開出今 西沼波 沼波 小泉 宇尾 東沼波 極楽寺 犬方 堀 辻堂 金剛寺 蓮台寺 安田 寺村 清崎 五僧田 妙楽時 長江 榆 筒井 安食中 南三津屋千尋 太堂 三津
山際集落	甲田 馬場 中山 物生山 莊厳寺 善谷 里根 笹尾 仏生寺 山之脇 男鬼 野田山 上石寺 延寿寺
街道沿い集落	小野 大堀 高宮 鳥居本 正法寺 原 出町 地蔵町 法士町 葛籠町

っている。文献からでは得られない情報、知識に関しては実際に見学に行き、自分たちで体験することによりその空間をさらに深く理解するように努めている。実際に見学に行った集住体としては長野県今井ニュータウン・大阪府Next21・岐阜県営住宅ハイタウン北方・集合住宅stepなどが挙げられる。

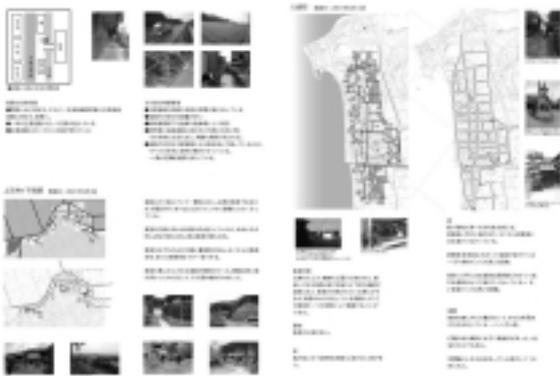
その他の活動

- 彦根市開出今町を調査対象地として開出今町の田風景を要素分解するフィールドワークを行い、建築文化に掲載したほか、京都造形大学ユニットとのセッションも行った。



建築文化掲載

- 彦根市芹川周辺にあり、200年ほど前から使われている足軽屋敷の1つを建築家の方と協力し実測や模型製作を行なった。
- 集落調査での出会いから鳥居本町にある民家の再生に参加させていただいた。
- 2004年度大津市まちづくりパワーアップ夢事業に採択され、大津都市再生大学校への参加を通じて旧大津百町の町屋フィールドワークを実施。旧大津百町の俯瞰模型を制作し、展示した。



集落調査データシート

集住形の研究

近代都市集住体や集住システムについての資料・事例を収集・調査しそれらを持ち寄り、勉強会を行



俯瞰模型写真

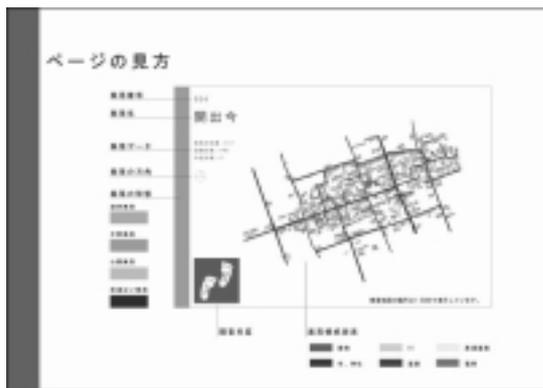
など、活動を通してさまざまな機会を得ることができ、結果的に多くの興味深い活動へと発展してきた。

現在の活動

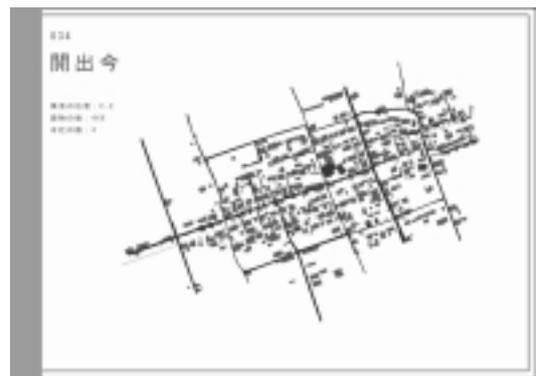
2004年度から文部科学省が新規創設した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」を通しての滋賀県立大学のプログラム「スチューデントファーム「近江楽座」-まち・むら・くらしふれあい

工舎」に採択され、集落調査した内容を図鑑化し本を発行することを始めた。

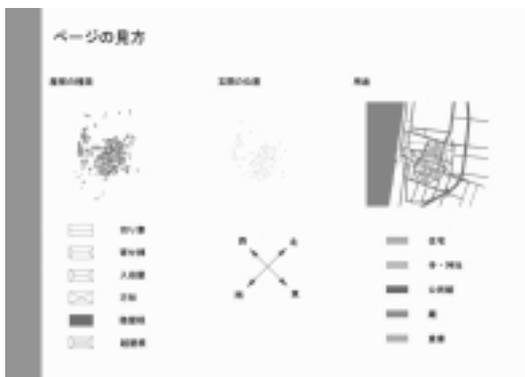
これまで培ってきた集落調査のノウハウを活かし集落をデータベース化し、それを蓄積していく。そのことによって集住体の追求だけでなく、彦根市や滋賀県の資料として活用でき、近年急速に進んでいる生産性のみを追及し、景観を無視する傾向にあるニュータウン開発やマンションの建設など、集落内における提案すべき事態に対して有効な資料にもな



2004年度発行「集まって住む形」



2005年度発行「005 下石寺」



2004年度発行「集まって住む形」



2005年度発行「005 下石寺」

るのではないかと考える。また、それを地域住民にも公開することにより、景観の再認識・文化継承・地域における世代間の交流のきっかけとなることを期待する。

図鑑は2004年度に一冊目として彦根市の全集落の紹介となる「集まって住む形」を、2005年度にはひとつの集落にしぼり、景観要素の抽出と分析を行った「001 大藪」「005 下石寺」を、2006年度にはその続編となる「022 小田部」「023 賀田

山」「035 甘呂」の計6冊発行した。最終的には彦根市全域の集落をすべて網羅することを目標としており、また学年を超えた交流による知識の共有はちーむはっけいの原動力の一つとなっているので、今後も学年・世代を超えて継続的に活動を行っていく予定である。

活動を通して

これらの活動を通して自分の興味あるテーマを見つけ出し、卒業論文や設計、修士論文とリンクさせ、さらに深い部分まで掘り下げた研究を行う学生も出てきている。

ちーむはっけい2006

M2 千葉 知智 chisato CHIBA

M1 竹岡 寛文 hurohumi TAKEOKA

USP-UNIT MASTER

中尾 達郎 tatsuro NAKAO

松岡拓公雄 ei MATSUOKA

牧野 瑞紀 mizuki MAKINO

各々の自主性を尊重し、チームワークから得られた成果を自分のテーマと関連付けて発展させていくこと、様々な機会を活かしその目標に向かって活動を続けていくことは個人のステップアップであるとともに“ちーむはっけい”にとってのステップアップへと繋がっていく。

takeo MATSUOKA

増井みのり minori MASUI

松岡 英緯 ei MATSUOKA

4 小林 加奈 kana KOBAYASHI

谷水 あき aki TANIMIZU

3 石川 智章 tomoaki ISHIKAWA

駒井 克哉 katsuya KOMAI

宮窪 翔一 shouichi MIYAKUBO